

復興の響

岩沼と兵庫

011年5月に発足。津波で家族や家を失ったメンバーもおり、互いに歌で励まし合ってきた。唱歌の学校は阪神大震災翌年の1996年9月に結成され、やはり歌による心のケアなどに取り組んできた。

岩沼童謡クラブからは約50人が出演し、5曲を披露。唱

復興を願って美しいハーモニーを響かせる岩沼市と西宮市の合唱団



初めて講演した吉川氏は「『はやぶさ』は幾多のトラブルを研究者らが諦めずに乗り越えて帰ってきた。被災地の子どもたちにも夢や可能性に挑んでほしい」と期待した。

講演会は東京のボランティア団体と地元住民グループが共催した。

学校林もう一度

巨理・吉田中で植樹

巨理町吉田中（生徒113人）で14日、東日本大震災の津波で枯れた学校林の再生を目指す植樹作業が初



校庭に苗木を植える生徒

めてあった。居久根（いぐね）と呼ばれる屋敷林をイメージして校庭を囲むように、3年間で約30種類の1

000本を植える。

生徒や保護者、住民、東京農大の学生ら計約180人が参加。企画したNPO法人「悠久の郷（さと）」（山梨県韮崎市）が桜や杉、町花のサザンカなどの苗木450本を提供した。

生徒たちは校庭の隅にスコップで穴を掘って丁寧に苗木を植え、土を盛って生長を願った。1年小野美咲さん(13)は「みんなで楽しく作業できた。後輩たちの役に立つ居久根に育ってほしい」と話した。住民グループから豚汁などの昼食が振る舞われた。

校庭を囲んで防風林の役割を果たしてきた松などは、津波の影響で大部分が枯れて伐採された。法人は

2013年度から同様の状態になった町内の高屋小、長瀬小とともに再生プロジェクトに取り組んでいる。

内山利勝理事長は「緑地の帯の再生とともに、数多くの樹木を育てることで子どもたちの環境教育にも生かしたい。居久根を活用した復興まちづくりも広く発信できたらいい」と語った。

脳卒中症状に 周囲も関心を

柴田セミナー

「元氣！健康！地域セミナーin柴田」が21日、柴田町榎木生涯学習センターであり、約100人が脳卒中などの予防法を学んだ。

「元氣！健康！フェアinとうほく」委員会と河北

新報社の主催。みやぎ県南中核病院（大河原町）の荒井啓昌医師が「脳卒中の対

抗策」、平井内科（同）の平井完史医師が「知ることから始まる糖尿病対策」と題してそれぞれ講演した。

荒井氏は脳卒中の典型的な症状として①顔が非対称になる②腕の一方が下がる③言葉がもつれる一を挙げ「周囲の人が変化に気付くことが大事。すぐに救急車を呼んで」と訴えた。「高血圧や肥満、喫煙が要因になる」とも述べ、減塩や継続した運動を呼び掛けた。

河北新人王戦 斉藤さん優勝

仙台・囲碁大会

衰えるロコモティブシンドローム（運動器症候群）を防ぐ体操の実演もあった。

第28回河北新報社囲碁新人王戦（県囲碁連盟、河北新報社主催）が22日、仙台



熱戦が繰り広げられた新人王戦市青葉区の仙台本町囲碁倶楽部であり、若林区の公務員斉藤晃大さん(26)が優勝した。

12〜78歳の28人が参加し、トーナメント方式で対局した。準優勝は美里町の会社員伊藤卓弥さん(28)だった。

他の入賞者は次の通り。
(敬称略)

▽3位 川田渉太、武田博▽5位 李栄燮、青木翔吾、園田隆一、石倉智之